

---

# ONE PIECEの麦わら海賊団に一般人を加えて見た

まる太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ONE PIECEの麦わら海賊団に一般人を加えて見た

### 【Nコード】

N8035U

### 【作者名】

まる太

### 【あらすじ】

ワンピースのクルーに一般人をいれてみたらどうなるかを考えていれてみました。

麦わら帽子の少年の旅についていく平凡な少年の旅（前書き）

いろいろ聞かしてくれると嬉しいです

## 麦わら帽子の少年の旅についていく平凡な少年の旅

時は大海賊時代。

世界は麦わら船長の最初の仲間はお○ノア・○口さんだと言うが実際は僕が最初だ。名前は教えない後に出るはずだ、多分…

僕は戦闘をしない、僕の仕事は大砲の整備や掃除、エクセトラ…まあ雑用だ。僕と船長との出会いはこうだ。

僕があつたのは小さいころ、フー○ヤ村でゴ○人間になった後の船長だ。

近くの酒屋で何か変な食べ物を喰っておかしくなった奴がいると聞いたが

近くで初めて見たのは赤い髪のおじさんが子供の足掴んで床に顔を叩きつけるシーン。

実際には船長が食べてしまった実を吐き出さそうとする必死になる場面だが、一部始終を見てない僕は思った。

（幼児虐待）と。僕は何も知らずにおまわりさんと呼んでしまった。

酒場の店主がなんとか止めたが、止めなかったら僕は将来四皇の一人を独房にぶち込んでたかも知れない。

（あの人、俺が悪いのかって顔してる）

鼻で笑った。

次の日、将来船長になる少年に話しかけられた。

「よお！」元気な声で話しかける少年に僕は挨拶を返した。

（馴れ馴れしいなコイツ）（何この子気持ち悪）と思いながら話を聞いてみる、「俺さ、ゴム人間になつたんだ、カナヅチになつちやっただけど、すげえだろ！！」と声を張り上げる少年だが

（それってただ単にお前が人の取ってきた物を盗み食いしてそのせいで食あたりしたっていうだけの話しじゃねーの？）  
と思いながら

「すごいね！」と言った。

次の日、将来僕の船長になる少年が、昨日なんかいざこざがあった山賊にボコボコにされていた。

（あ、昨日のガキ死にそうだな）と思いながら僕は山賊の後ろで鼻をほじりながら見ている。

それなのに山賊は気づかない、（そんなに地味 僕。）山賊の前で膝を抱えて鬱になっている僕のとおりで将来船長になる少年が血達磨にされている。

そして思った。

(知らねー。)  
そんな事を考えている内に赤い髪の人とその仲間たちがたくさんいた。酒場の店主と村長のジジイが驚いている。「港に誰も迎えがないんで何事かと思えば…いつかの山賊じゃないか。」  
結構余裕だねアンタ、子供の頭に刀向けられた状態なのによく平気でそんな事喋れるね。「○ヤンクス…」  
「ル○イ、お前のパンチはピストルみたいに強いんじゃないのか？」

いやいや、普通子供が大の大人にケンカふっかけねーよ  
「何しに来たか知らんがケガせんうちに逃げだしな、それ以上近づくと撃ち殺すぜ、腰又ケ。」  
すると山賊の一人が赤髪の男に銃をむけた。  
赤髪の男が言う、「銃抜いたからには、命賭けるよ。」  
(何故挑発するの？頭吹っ飛ばされたの？)と僕は思った。  
「そいつは威しの道具じゃねえって言ってたんだ…」

ダアアアアアン！！  
山賊の頭に鈍い音が響いた。(撃っちゃったよ 町中で…)僕はおまわりさん呼んだ。  
ダアアアアアン！！おまわりさんが撃たれました。  
山賊は「や…やりやがったなてめえ！」「なんて事…なんて卑怯な奴らだ！」

(その前に救急車呼ぼう…) そう、この人達、内容を知っている山賊はともかくおまわりさんは何が起こったかまるで理解していない。おまわりさんは(何が起きたの?) という顔をしてぶっ倒れている。

近くの海賊が「卑怯? 甘い事言ってるじゃねえ、聖者でも相手にしてるつもりか?」赤髪の男はこう言った「お前らの目の前にいるのは、海賊だぜ。」

「野郎ども! ぶち殺せ!」山賊の頭が叫ぶ。

赤髪の男が手を出そうとしたが

「俺がやるう。充分だ。」

と長い銃を持った男が言う。

その男は銃を棍棒のようにし次々と山賊を殴り倒した。

「うちと一戦やりたきゃ、軍艦一つ引つ張ってくるんだな。」

あの 呼ばれちゃ困るし…、後銃で殴りつけるなら剣の方がよかつたんじゃないですか? 山賊の頭は顔が青ざめた、「まてよ! 手を出したのはこのガキだぜ!」

(カツコ悪、子供盾にしてるよこの人。)

僕は口を抑えて笑った

「どうせ賞金首だろ?」

僕は吹いた。

(助かってねーし!) 山賊は慌てて煙玉を地面に叩きつける。

ポオン!!!!!!!!!!

その煙は…

町を覆った。(煙たっ!!!!!!!!!!!!)ったく、バカじゃねえの!)

その後、近くで小船を見た、乗ってるのが、将来船長になる少年と山賊の頭だった。(プライド無っ!!)と港の木の影で思った。

「さすがに海に山賊がいるとは思わないだろ。」山賊は言った。

「チクショー! 離せコノヤロー!!」少年は叫ぶ。

「しかし人質として連れてきたがもう用なしだ!」

山賊は少年を海に投げ込んだ。

「あばばびばびばばばばびばび!」(めっちゃ溺れてる)

鼻で笑った

「アーハッハッハッハッハ!」山賊は笑い上げた。

すると後ろで波が揺れる音がする、見てみると後ろに巨大な海獣が!!!

「えっ!?!」

海獣は山賊を 「ギヤアアイアアイアアイアアイアアイア!!!」



おいしくいただきました

少年は逃げようと抗うが海獣に見つかってしまう、海獣が少年を襲った。

ガキイイーン！！

しかし少年は助けられた、赤髪の男の手によって。

「失せる！」男が言う、海獣は逃げていった。(何故っ!!?)「恩にきるよル〇イ、マ〇ノさんから全部聞いたぞ、俺たちの為に戦ってくれてたんだな。」赤髪の男は話しかけるが少年は泣き止まない。

「おい泣くな、男だろ？」

少年は泣きながら答えた。

「だって！！！！シャン〇ス…！！！！」

「腕があああああ！！！！！！！！！！」

赤髪は腕を無くしていた、それは子供には残酷過ぎる光景だった…  
しかし僕は

（あの人、岸にあがる前にくたばるんじゃないか？）翌日

赤髪の男はこの島から船出した、その時に少年はある大事な物を預かった、それは赤髪の男が身につけていた麦わら帽子だった。

その後、少年は10年経て海に出る決意をした、その時に僕は必死の形相で「僕を海につれてって！」と言った。

彼は「いいぞ！」と笑顔で言った。

僕は必死だった。

何故かと言うと…

家を追い出された。

という訳で僕も海に出た。

世は大海賊時代！

彼はこう叫んだ、

「海賊王に俺はなる！……！」  
僕は微笑みながら

（とりあえず住む所捜さなくちゃ。  
）  
と考えた。

麦わら帽子の少年の旅についていく平凡な少年の旅（後書き）

読んでいただきありがとうございます。貰えれば感想をいただきました。  
いす。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8035u/>

---

ONE PIECEの麦わら海賊団に一般人を加えて見た

2011年10月9日09時41分発行